
ファンタシースターポータブル2i ~ 異世界の5人 ~

サイクロン&ハリケーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ファンタシースターポータブル2i 異世界の5人

【Nコード】

N4736Z

【作者名】

サイクロン&ハリケーン

【あらすじ】

それは遠い星のお話。軍事会社リトルウィングにルーク・ファイルンという青年がいた。彼は亜空間事件を解決した英雄である。欠片事件から1年数ヶ月がたったある日、何やら怪しい5人がある会話をしている。彼等は何者なのか、まだするのは先の事である。

ブログ：謎の5人（前書き）

初投稿です。自信がないですが、どうぞ御覧ください（ちなみに主人公はまだ出ません）。

プロローグ：謎の5人

? 「ここは、どこだ？」

? 2 「どうやら成功したみたいだね。」

? 3 「ああ、そのようだな。」

? 「失敗するかと思っただが・・・、何もなくて良かった。」

? 4 「失敗するわけないツスよ。俺が造ったんツスよ」

? 5 「その様なしゃべり方だから、そう言われるんだ。」

? 3 「でも、彼の腕はたしかだよ?」

? 4 「良いこと言ってくれるじゃないツスカ。」

? 「そんなことより、本当に大丈夫なのか?」

? 5 「ああ、大丈夫だ。準備はできてる。俺達の目的を達成させよう。」

? 「ふっふっふ、そうか。」

? 2 「時間も無いし、もう行こうぜ。」

？3「そっだね。」

？5「まてよ、先々行くのは良くない、そっだなまずは・・・。」

ブログ：謎の5人（後書き）

うーん、とりあえずここまでですね。誤字、脱字がありましたら、教えてください。

第一話：依頼 1（前書き）

続けて投稿です。前は会話だけだった。でも後悔はしていないようなあるような。

まあ前は気にせず御覧ください。

第一話：依頼 1

「マイルーム」

ここの部屋に1人の青年がいた。彼の名はルーク・フィレン、亜空間事件を解決した英雄である。だが、今は彼はベッドで寝ている。病気出もなく怪我したわけではない。彼に取って久しぶりの休日になる……はずだった。

コンコン

「はい。」

「ルーク？いる？」

「（うるさいのが来たな）ああ」

扉が開き姿を見せたのはエミリアだった。

「何よ、その返事は？」

「別に（言ったら殺される）で、何のようだ？」

「うーん、実はさ。あんたにお願いしたい事があるの」

「なんだ？」

「実はナギサに声をかけたんだけど、依頼が入っていけなくなった

んだ。」

「んで？」

「だから、あんたに来てもらいたいんだ」

「どこに？」

「依頼」

「依頼？・・・悪いが、今日は俺は休・・・」

「お父さんに声を掛けたら、ルークと行けと言われた」

「おいおい・・・」

「ルーク・・・お願い」

少し考えて、ため息を付き

「わかったよ。付いて行けばいいんだろ？」

と答えエミリアが笑顔で

「ありがとう」と答えた。

「やれやれ」と言いながらベッドから出でる。

「依頼内容は？」とエミリアに聞く。

「うーん、何かパルムで不審な5人を見たんだって。」

「その5人を何者が調べると。」

「そう、その通り」

「さっさと終わらせよう。せつかくの休日なのに仕事するなんて」

「ぶつぶつ言わないの。はやくい」

「やれやれ」呟きながら、部屋を出た。

第一話：依頼 1（後書き）

やっぱり小説は難しいですね。でも頑張ります。
・・・うん、頑張る

第一話：依頼2（前書き）

パツと浮かんだら書いていますので、内容は少し心配です。

ルーク「やれやれ、」

第一話：依頼2

〰️パルム草原〰️

依頼を受けたエミリアと無理やり依頼を受けさせられたルークがいた。

「エミリア？ここに依頼にあった不審な5人を見た場所か？」

「うん。そうだけど、誰もいないね？」

「だが、油断はするなよ。いきなり襲って来るときもあるからな。」

つとエミリアに注意を促した。

「わかった」つと返事をするエミリア。

「とりあえず、辺りに誰かいないか、搜索するか。」

「そうだね、まずは人を探さな……」

「！！？エミリア！！伏せろ！！」と叫ぶルーク。

「え？」

「ちっ」とエミリアを無理やり右に押す。

「痛っ」と地面に尻餅をついたエミリアが声を出す。

「くそ、どこからだ」辺りを見渡すルーク。っとそこに。

「あゝあ、外しちゃった。結構自信あったんだけどなあゝゝ。」
と声がした。

「誰だ!!」っと声がした方向に声を出した。

「普通、自分から名乗るものでしょう? 礼儀をしないの?」

「なに?」

「いたたたっ」お尻を擦りながら立ち上がるエミリア。

「大丈夫か。エミリア?」

「人を押し倒しといて、その台詞言っかな? まあ大丈夫だけど。」

「わりい、その方法しかなかったから。」

「いやいや、その他にも方法があるでしょう!？」

などの会話をしていると、

「何? 漫才でもやってるの? あんまり面白くないよゝゝ」

「姿を見せないお前に言われたくない。っていうか漫才なんてして
いない」と声がする方向に喋る。がしかし、

「どこ見て喋ってるの、後ろだよゝゝ。君の後ろ」

「「!!??」と振り向く2人。

「いつからそこに？」っと、質問をする。

「『お前に言われたくない』って辺りかなあ〜?」

「うつつ、何かしゃべり方が腹が立つ。」っとエミリアが言う。

「あははは、いい慣れてるから、痛くも痒くもないよ〜。どう?
余計に腹が立ったでしょう?」

「「.....」」

「ま、いいや。その事を言うために、出てきたんじゃないからね。
実はさ、君達にお願いがあるんだ」

「誰がお前のお願いを聞くもんか。」っと、答えるルーク。

「ほんと。襲撃しといてなによ、それ？」エミリアも答える。

「困っている人を助ける仕事なんでしょう? 助けてよ。子供だよ? 僕ちゃん」

「子供も大人も関係ない。襲撃した理由を聞き出してやる。っていうか自分からいうか? 『子供だよ?』って「っと言いながら、シッ
ブウジンライを構える。

「子供だから子供って言うただけだよ。それよりなに? 子供に

武器使うの？大人げないなよ？ま、武器を使っても君は勝てないけどね」

つと言いながらゼロセイバーを構える。

「エミリアー！下がってろ！！」

「でも、ルークー！」

「パートナーの言う事聞くもんだよ」。

つと笑いながら言う。

「うっさい、あんたに聞いて……」

「エミリア。頼む……」つと真剣な顔でエミリアに言う。エミリアも観念したのか、

「わかった。」つと答えた。

「さてと、準備はいいか？」つと子供に言う。

「僕ちゃんは、いつでもいいよ」。あ、そうそう、僕ちんの名前はミケ。ミケ・ラ・オーディー」

そしてミケはルークに飛び掛かる。

第一話：依頼2（後書き）

とりあえず、ここまで。

ルーク「やっぱり、内容が」

誤字、脱字がありましたら教えてください。

ルーク「無視するなよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4736z/>

ファンタシースターポータブル2i～異世界の5人～

2011年12月16日22時48分発行